

うらむらさき

樋口一葉

青空文庫

上

夕暮ゆふぐれの店先みせさきに郵便脚夫いうびんきやくふが投込なげこんで行きし女文字をんなもじの書ふ
 状まじ一通いつう、炬燵こたつの間の洋燈らんぶのかけに讀よんで、くるくくと帶おびの間へ
 卷收まきをさむれば起居たちゐに心の配こころくばられて物案ものあんじなる事こと一通りならず、お
 のづと色いろに見みえて、結構けつこうじん人の旦那だんなどの、何どうぞしたかとお問とひ
 のかゝるに、いえ、格別かくべつの事ことでも御座ござりますすまいけれど、仲なかま
 町ちの姉あねが何なにやら心配しんぱいの事ことが有あるほどに、此方こちから行ゆけば宜よい
 のなれど、やかましやの良人をつとが暇ひまといふては毛筋けすぢほども明あけさせ
 て呉くれぬ五月蠅うるささ、夜分やぶんなりと歸かへりは此方こちから送おくらせうほどにお

うち良人に願ふて鳥渡來て呉れられまいか、待つて居る、と云ふ文
面みで御座ござります、又またま、娘むすめと紛紜もめでも起おこりましたのか、氣きの狭せまい
人ひとなれば何事なにごとも口くちには得言えいはで、たんと胸むねを痛いたくするが彼あの人ひと
の性しやうぶん分ぶん、困こまりもので御座ござります、とて態わざとの高笑たかわらひをして
聞きかせれば、はて扱さてき氣どくの毒どくなど太ふとい眉まゆを寄よせて、お前まへにすればた
つた一人ひとりの同胞きやうだい、善惡よしあしともに分わけて聞きかねばならぬ役やくを笑わら
ひ事ごとにしては置おかれまい、何事なにごとの相談さうだんか行いつて様子やうすを見みたら
ば宜よからう、女をんなは氣きの狭せまいもの、待まつと成なつては一時いつときも十年じふねん
のやうに思おもはれるであらうを、お前まへの懈おこたりを私わしの故せむに取とられて恨うら
まれても徳とくの行ゆかぬ事こと、夜よるは格別かくべつの用ようも無なし、早はやく行いつて聽きい
て遣やるがよからう、と可愛かはゆき妻つまが姉あねの事ことなれば、優やさしき許ゆるしの願ねが

はずして出るに、飛立つほど嬉しいを此方は態と色にも見せず、
 では行きませうかと不勝々々に箆筒へ手を懸れば、不實な事を
 言はずと早く行つて遣れ先方は何れほど待つて居るか知れはせぬ
 ぞ、と知らぬ事なれば佛性の旦那どの急き立つるに、心の鬼
 やおのづと面ぼてりして、胸には動悸の波たかゝり。
 糸織いとおりのこそで小袖かきを重ねて、縮緬ちりめんの羽織はおりにお高祖頭巾こそづきん、脊せいの高たかき
ひと人なれば夜風よかせを厭いとふ角袖かくそでぐわいとう外套うわいとうのうつり能よく、では行いつて來きま
 すると店みせぐち口くちに駒下駄直こまげたなほさせながら、太吉たきち、太吉たきちと小僧こぞうの脊せを人
ゆびさし指さきの先つに突ついて、お舟ふねこぐ眞似まねに精せいの出でて店みせの品しなをばちよろ
 まかさされぬやうにしてお呉くれ、私わたしの歸かへりが遅おそいやうなら構かまはずと
と戸とをば下おろして、行あんくわ火あたへ焙あるならいつでも床とこの中なかへ入いれて置おいて

は成ならないぞえ、さんは臺だいどころ所の火ひのもとを心こころづけて、旦那だんなのお枕まくらもとへは例いつもとほの通りお湯ゆわかしにお烟たばこ草ぼん盆わす、忘れぬやうにして御ご不ふ自由じゆうさせますな、成なるたけ早くは歸かへらうけれど、と硝がらす子す戸どに手てをかくれば、旦那だんなどの聲こゑをかけて車くるまを言いふてやらぬか、何どうあるで歩いては行ゆかれまいにと甘あまたるき言葉ことば、何なんの商あきうど人にようばうの女にようばう房ぼうが店みせから車くるまに乗のり出すは榮えい耀えうの沙さ汰たで御ご座ざります、其そこ處ちらの角かどかよら能よいほどに直ね切ぎつて乗のつて參まゐりましよ、これでも勘かん定ちやうは知しつて居ゐますに、と可か愛あいらしい聲こゑにて笑わらへば、世せ帯たいじみた事ことをと旦那だんなんな那などのが恐きよう悦えつ顔がほ、見みぬやうにして妻つまは表おもてへ立たち出いでしが大おほ空ぞらを見み上げてほつと息いきを吐つく時とき、曇くもれるやうの面おももちいとゞ雲くも深ふかう成なりぬ。

何處どこの姉様あねさまからお手紙てがみが來こやうぞ、眞赤まつかな嘘うそをと我家わがやの見返みかへ
 られて、何事なにごとも御存ごぞんじなしによいお顔かほをして暇ひまを下くださる勿躰もつたい
 なさ、あのやうな毒どくの無い、物もの疑うたがひといふては露つゆほどもお持も
 ちなさらぬ心こころのうつくしい人を、能ようも能ようも舌した三寸さんずんに欺だましつ
 けて心こころのまゝの不義放埒ふぎはうらつ、これがまあ人ひとの女房にようぼうの所業しわざであ
 らうか、何なんといふ惡者わるものの、人ひとでなしの、法はふも道理だうりも無茶苦茶むちやくちやの
 犬畜生いぬちくしやうのやうな心こころであらう、此このやうな畜生ちくしやうを
 ば、御存ごぞんじの無い事こととて天てんにも地ちにも無いかのやうに可愛かあいがつて
 下くだすつて、私わたしが事ことと言いへば御自ごじ分の身みを無ない物ものにして言葉ことばを立て
 させて下くださる御思おぼしめし召ありがた有うれ難おそい嬉しい恐おそろしい、餘あまりの勿躰もつたいな
 さに涙なみだがこぼれる、あのやうな良人をつとを持もつ身みの何なにが不足ふそくで劔つるぎの刃は

渡りするやうな危険い計較をするのやら、可愛さうにあの人の好
 い仲町の姉さんまでを引合ひにして三方四方嘘で固めて、此
 のあし足はまあ何處へ向く、思へば私は悪黨人でなし、いたづら者
 の不義者の、まあ何といふ心得違ひ、と辻に立つて歩みも得や
 らず、横町の角二つ曲りて今は我家の軒は見えぬを、振かへ
 りては熱き涙のはらくとこぼれぬ。

良人の名は小松原東二郎、西洋小間物の店は名ばかりに、
 有あまる身代を藏の中に寐かして、さりとは當世の算用知
 らぬ人よし男に、戀女房のお律が手ばしこさ奥も表も平手に
 揉んで、美しい眦に良人が立つ腹をも柔げれば、可愛らしい口
 元からお客様への世辭も出る、年もねつから行きなさらぬ

にお怜りこ憫うなお内儀かみさまと見るほどの人ひと褒ほめ物の、此この人ひと此身このみが裏う
 らみちはたらひとみづかくら道みちの働はたらき、人は知しらじと自みづら晦くませども、優やさしき良人をつとこころが心こころざし
 あやにくまつこころち生あや憎にく纏まつはる心地こころちしてお律りつは路傍ろぼうに立たちすくみしまゝ、行ゆくまいか
 行ゆくまいか、寧いつ思おもひ切きつて行ゆくまいか、今日けふまでの罪つみは今日けふまで
 の罪つみ、今いまから私わたしが氣きさへ改あらためれば、彼かのお人ひととてさのみ未練みれんは仰おつ
 しやるまじく、お互たがひに淺あさい交際つきあひをして人ひと知しらぬうちに汚けがれを
 す、雪ゆきいで仕舞しまつたなら、今いまから後のちのあの方かたの爲ため、私わたしの爲ため、生なま中なかこ
 がれて附つき纏まとふたとて、晴はれて添そはれる中なかではなし、可か愛あいい人ひとに
 ふぎなきすこ不義ふぎの名なを着きせて少すこしも是これが世間せけんに知しれたら何なんとせう、私わたしは兎と
 も角かくあの方かたはこれからの御出ごしゆつせまへ世前いつしやう一いつ生しやうを暗黒くらやみにさせまし
 てそれわたしで私わたしは満まん足ぞくに思おもはれやうか、おいや厭おそな事こと恐おそろしい、何なんと

おもわたし逢ひに出て来たか、よしやお文が千通來やうと行き
 思ふて私は逢ひには成るまいもの、もう思ひ切つて歸りませう、
 へせねばお互ひ疵には成るまいもの、もう思ひ切つて歸りませう、
 歸りませう、歸りませう、歸りませう、えゝもう私は思ひ切つた
 と路引違へて駒下駄を返せば、生憎夜風の身に寒く、夢のやう
 なる考へ又もやふつと吹破られて、ええ私は其やうな心弱
 一事に引かれてならうか、最初あの家に嫁入する時から、東
 二郎どのを良人と定めて行つたのでは無いものを、形は行つて
 も心は決して遣るまいと極めて置いたを、今更に成つて何の義
 理はり、悪人でも、いたづらでも構ひは無い、お氣に入らずば
 お捨てなされ、捨てられ、ば結句本望、あのやうな愚物様を
 良人に奉つて吉岡さんを袖にするやうな考へを、何故しばらく

青空文庫情報

底本：「樋口一葉全集第二巻」新世社

1941（昭和16）年7月18日発行

1942（昭和17）年4月10日再版

底本の親本：「校訂一葉全集」博文館

1897（明治30）年1月9日発行

1897（明治30）年6月再版

初出：「新文壇 二號」

1896（明治29）年2月5日

※送りがな、振りがな、漢字の使い方の不統一は、底本通りです。

※底本の編者による脚注は省略しました。

入力：万波通彦

校正：岡村和彦

2014年10月23日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waazora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

うらむらさき

樋口一葉

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>